

# ザ・シンフォニーホール

# THE SYMPHONY HALL

所在地/大阪府大阪市淀川区淀南2-3-3

location/ Osaka

建築主/朝日放送株式会社

owner/ Asahi Broadcasting Corporation

設計者/大成建設株式会社

architects/ Taisei Corporation

施工者/大成建設株式会社

contractor/Taisei Corporation

竣工/昭和57年9月20日

completion date/ September, 1982



正面全景 General view of the front side.



グランドホワイエ Grand foyer.

## 建築概要

敷地面積 3,221㎡

建築面積 2,226㎡

延床面積 14,898㎡

客席数 1,702席

構造 基礎及び地下部分：鉄筋コンクリート造  
地上部分：鉄骨鉄筋コンクリート造 ホール屋根：鉄骨造

規模 地下3階 地上6階 塔屋1階

## 仕上げ概要

外部仕上げ 屋根：アスファルト露出防水 アスファルトシングル葺き 外壁：特殊磁器タイル貼り 建具：アルミサッシュ自然発色縦軸回転 窓：熱線吸収ガラス入り

内部仕上げ 2・3階ホワイエ 床：ウィルト

ン別織りカーペット 壁：大理石・グレーミラー・クロス 天井：岩綿吸音板キューブタイプ

VEP吹付け 4～6階ホワイエ 床：ループカー

ペット 壁・天井：クロス ホール客席 床：コルクタイル 壁：無機質系塗装・サンフット

天井：石膏ボード2重貼りVEP吹付け音響拡散

体：GRC成型板吹付けタイル ホールステージ 床：シオジ積層フローリング 壁：人工大理石

天井：可動音響反射板アクリル製パネル

設備概要 電気 受変電：6KV2回線受電 予備電源：発電機 6KV 2,000KVA 蓄電池 鉛急放電

方式 400AH

空調 熱源装置：ガス焚冷温水発生機/ホール

ロビー系統200RT2台 チラーユニット/楽屋

系統40RT1台 管理事務室系統15RT1台 冷

却塔3台 ポンプ13台 給湯暖房用ボイラー250

kcal/h 1台 方式：客席・ロビー/セント

ラルダクト方式 客席4階/フロアヒーティン

グ 楽屋・事務室・会議室/外調機+ファンコ

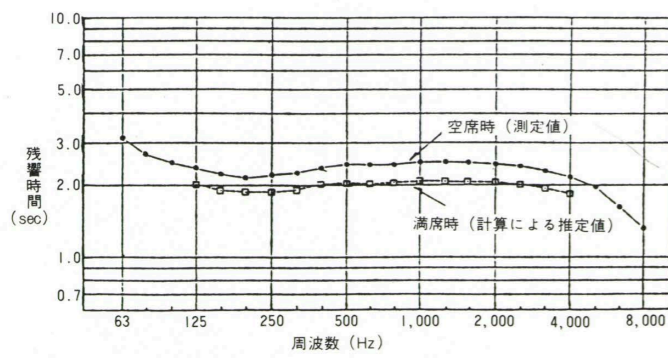
イル方式 券売場・調光機械室・投光室/パ

ッケージ方式 衛生 給水 引込管75mmφ高架水槽方式 受水

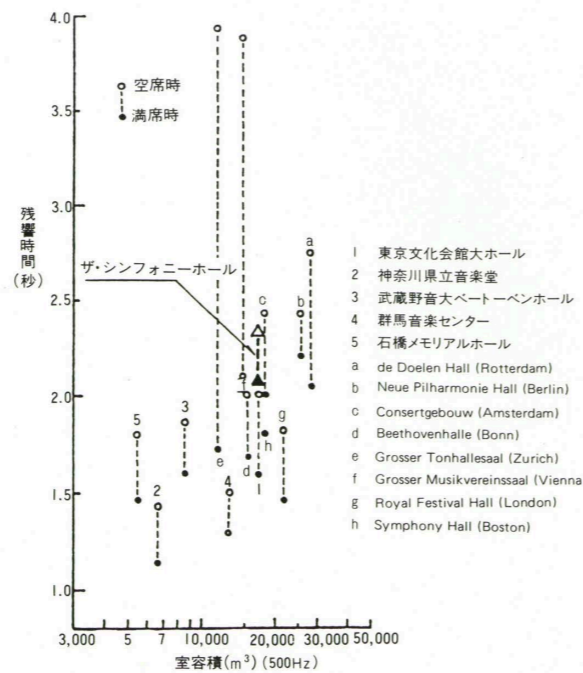
槽40m<sup>3</sup> 高架水槽10m<sup>3</sup> 消化 スプリンクラー・屋内消火栓・連結送水

管・ハロン消火 排煙 機械排煙および自然排煙



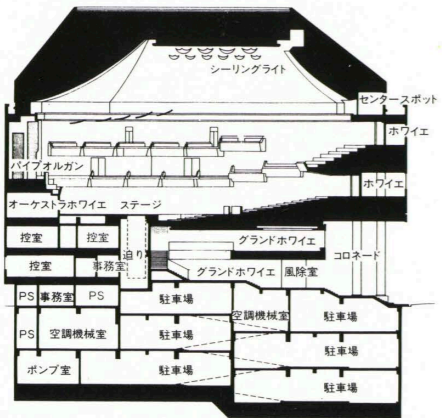


残響時間周波数特性

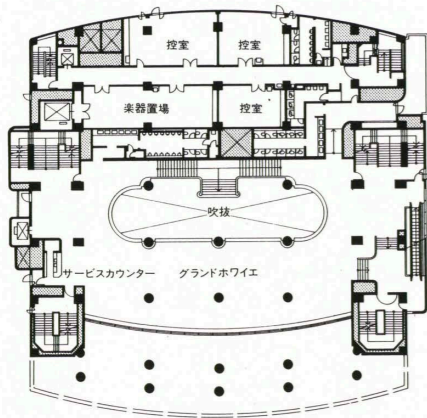


コンサートホールの残響時間

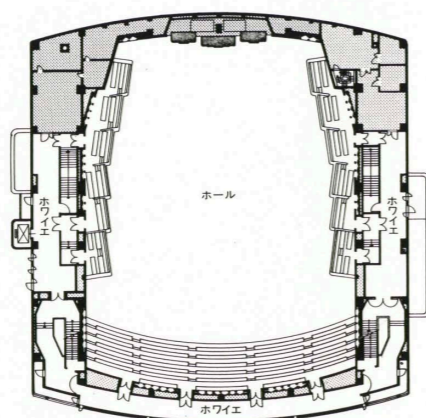
- 1 東京文化会館大ホール
- 2 神奈川県立音楽堂
- 3 武蔵野音楽大ペーベンホール
- 4 群馬音楽センター
- 5 石橋メモリアルホール
- a de Doelen Hall (Rotterdam)
- b Neue Philharmonie Hall (Berlin)
- c Concertgebouw (Amsterdam)
- d Beethovenhalle (Bonn)
- e Grosser Tonhalleaal (Zurich)
- f Grosser Musikvereinssaal (Vienna)
- g Royal Festival Hall (London)
- h Symphony Hall (Boston)



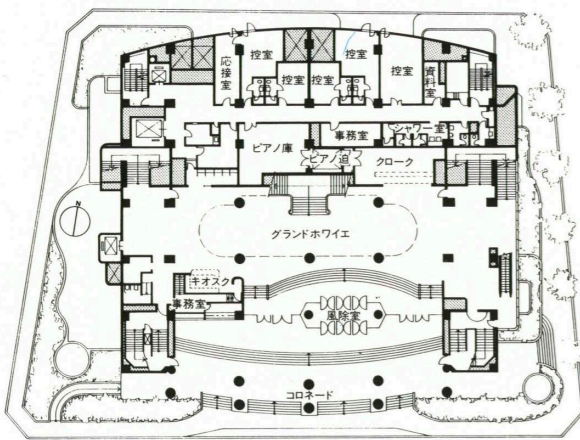
断面 縮尺 1/900



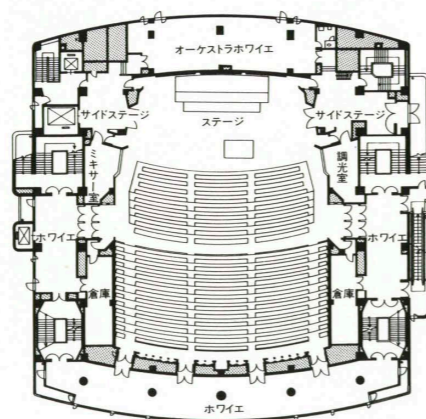
3階平面



5階平面



2階平面 縮尺 1/900



4階平面

音楽にかぎらず、演劇、講演、テレビ・ショーなど多目的な使用を前提にしたオーディトリウムの多い日本では、クラシック音楽を主目的にしたコンサートホールは決して多くない。大阪につくられた「ザ・シンフォニーホール」は、日本ではじめて民間資本によってつくられたコンサート専用ホールである。このホールは、大阪に本拠をおくテレビ・ラジオ局、朝日放送が、創立30周年を記念して建設したものである。

建物は、朝日放送本社ビルと、同じ資本系列のホテルプラザに隣接する、約3,200㎡の土地に建てられている。この種の用途の建物としては、決して余裕のある敷地の広さとはいえないが、そこに地下3階、地上6階、延床面積約14,900㎡の建物がつくられた。ただ幸運なことにホールの東側の隣接の場所が大阪市の公園であり、この公園がホールのいわば前庭となって、建物へのアプローチに余裕を与えている。

音楽会に訪れる人たちは、玄関の列柱をくぐって、2階レベルの吹抜けのある玄関ホールへと入る。中央階段をのぼって3階にいたると、そこにホワイエがあり、簡単な飲み物などをとるサービスカウンターがある。さらにもう1階のぼって、はじめてオーディトリウムのある階に達する。4階から6階にいたる空間がコンサートホールとして使われている。

ホールの客席は1,702席。日本ではめずらしいステージ

を四方から観客がとりかこむ、いわゆるアリーナ形式の客席配置が採用されている。残響時間は空席時2.5秒、満席時で2秒に設定されている。音響設計は東京大学の石井聖光教授が担当し、実物の1/10模型によって、入念に音響実験をくりかえし、所期の音響効果を出すことに成功した、と説明をうけた。ただアリーナ形式の客席配置のなかで、全方向に同じように均質な音が確保できたかどうかという点については、問題がないわけではないようにも感じた。

このホールの場合、欧米の諸都市にみられる、「王立」「国立」あるいは「市立」などのコンサートホールなどとはかなり性格を異にしている。というのも施主が放送会社であることからわかるように、ホールは音楽専用のコンサートホールであると同時に、ときにはテレビあるいはラジオのスタジオとしての機能もおびているからである。そのせいか、ホールの空間や細部のデザインは、この種のホールにありがちな格式張った固苦しさがなく、いわば普段着のホールの気楽さにつつまれている。もちろん、こうした結果を生んだもうひとつの理由としては、民間資本の仕事であるために建築費に余裕がなく、建築材料等も贅沢なものはほとんど使えなかったことなどをあげることができよう。

しかしそうしたローコストの工事のなかで、一応のホールの音響効果と、デザイン上のまとまりを生み出した点は、やはり大いに評価すべきであろう。

REVIEW

Takashi Hasegawa, Shoji Hayashi, Kinpei Koshiyama

In spite of large numbers of general-purpose auditoriums capable of accommodating concerts, dramatic performances, lectures, and television programs, concert halls solely for the performance and enjoyment of classical music are rare in Japan. Built to celebrate the thirtieth anniversary of the founding of the Asahi Television and Radio Broadcasting Corporation, which centers in the Osaka district, the Symphony Hall, in Osaka, is the first purely concert hall of its kind ever built in this country on private funds.

Though the site (3,200 square meters), adjacent to the Hotel Plaza, which is capitalized by the Asahi Broadcasting Corporation, is none too spacious for such a building, using three basements and six stories has made possible a total floor area of 14,900 square meters. Fortunately the civic park on the west side acts as a front garden for the hall and adds expansiveness to its approach.

Guests pass through the entrance colonnade and proceed to the double-height hall on the second level. From this space a central staircase leads to the foyer on the third level, where there is a service counter offering simple

drinks. The auditorium itself is on floors four through six.

Seating 1,702, the auditorium is of the arena style, unusual in Japan, in which the audience sits on all four sides of the stage. Reverberation times were set at 2.5 seconds when the room is empty and 2 seconds when it is full. And the desired acoustical effects were successfully achieved by conducting many tests on a 1/10-scale model, though there is some question as to whether total sound balance in all directions has been ensured.

Unlike royal, national, and civic auditoriums in the West, in addition to its purely concert functions, this building will sometimes be called upon to serve as a radio or television studio. Perhaps for this reason, its interiors lack the self-conscious dignity often associated with buildings of this kind. Of course, private financing and consequent funding restrictions forbade luxury in building materials. Nonetheless, the very success with which good acoustics and a coherent design have been produced on limited funds deserves special commendation.